

非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

金

【海外】

1. 価格推移

1月相場	高値	安値
ロンドン相場(\$/toz)	: 1,584.20 (31日)	1,520.55 (2日)
国内建値(円/g)	: 5,579 (8日)	5,475 (14日)
為替相場(円/\$、TTS)	: 108.83 (8日)	111.33 (17日)

2020年1月の海外金相場は、2日に\$1,520.55/toz(トロイオンス)と高値圏でスタート、年初から上旬にかけては、米・イラン両国の対立激化やそれに伴う中東情勢の緊迫化により続伸、8日には、\$1,582.85をつけ、前の年の9月の高値水準をあっさり上回り、2013年4月以来6年9か月ぶりの高値をつけた。ところが、その後、その中東情勢の緊迫化が和らぎ、ドル高も復活したため、金は中旬にかけて、\$1,550水準前後まで後退した。しかしながら、月末にかけては、中国で発生し世界的に猛威を振るい始めた新型肺炎により世界的な景気低迷が市場に浸透したことで、安全資産の金が積極的に買われ、\$1,570~1,580水準まで一気に上昇した。31日には\$1,584.20と、8日につけた高値をあっさり抜き、再度2013年4月以来の高値をつけて越月した。

2. 為替相場推移

2020年1月の為替相場は、長い年末年始休暇後の6日に\$1=109.11円と年末レベルから急伸してスタートした。これは米軍がイラン革命防衛隊の精鋭組織の司令官を殺害したのを受け、円を買うリスク回避の動きが強まったためであった。8日には米国とイランの対立激化という地政学リスクの高まりを受け、さらに円買いが進み、\$1=108.83円と約3か月ぶりの円高・ドル安水準となった。ところが、翌9日には、欧米の経済指標が世界景気への懸念を和らげたのを受けて、再び\$1=110円水準へ下落、さらにはトランプ米大統領の演説を切っ掛けに、米・イラン両国がこれ以上の軍事力行使に動く可能性は後退したとの見方が市場に浸透したことで円は続落、14日には\$1=111.16円まで後退した。17日には、15日の米中貿易協議の第1段階の合意文書署名を受ける形で、\$1=111.33円まで円が低下し、前の年の5月以来約8か月ぶりの円安・ドル高水準をつけた。その後は、世界的な株高を背景に、\$1=110~

111 円の円安値圏で小浮動推移した。しかしながら、月末にかけては、中国を中心に感染が広がった新型肺炎が世界経済を下押しするとの懸念が広がったことで、低リスク通過である円が買われ、概ね\$1=110 円水準前後まで円が上昇した。31 日には\$1=110.06 円をつけて越月した。

1 月の円の対ユーロでの動きは、対ドルとほぼ同じような値動きとなった。中旬では、米中貿易協議合意の影響もあって、円が対ユーロでも売られたが、月末には新型肺炎による世界的な景気下押し感から反対に€1=121 円水準まで円が買われた。

【国内】

1. 建値推移

2020 年 1 月の国内金山元建値は連休明けの 6 日に 5,495 円/g(グラム)といきなり大幅にアップしてスタートし、8 日には 5,579 円と前の年につけた年間最高値をあっさり上回り、過去最高値(6,470 円)をつけた 1980 年(昭和 55 年)1 月以来、実に 40 年ぶりの高値を記録した。ただし、その後は海外相場が下落して、ほとんど反発商状を見せなかったことから、概ね 5,500 円台前半での小動きとなった。月末では、海外相場が上昇基調を辿ったが、金建値は 8 日の水準を上回ることにはなかった。31 日には 5,540 円をつけて越月した。

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2019 年 12 月分=令和元年 12 月分)

生産 : 11,145 kg (前月比 22.6%増、前年比 10.1%増)
出荷 : 9,576 kg (前月比 0.1%減、前年比 8.5%増)
在庫 : 5,641 kg (前月比 38.6%増、前年比 5.8%減)

(生産、出荷、在庫の出典は経産省生産動態統計調査)

12 月の生産は前月比、前年同月比とも増で、後者は 2 か月連続のプラス。出荷は円建て価格上昇による低水準販売から 2 か月連続の前月比減だが、前年同月比では 11 か月ぶりの増。これは、前の年の 12 月がかなり低いレベルだったため。在庫は前月比増、前年同月比減。前年同月比は 11 か月連続の減。

3. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2019 暦年計=令和元暦年計)

生産 : 110,457 kg (前年比 11.2%減)
出荷 : 110,630 kg (前年比 10.2%減)
在庫 : 5,641 kg (前年比 5.8%減)

(生産、出荷、在庫の出典は経産省生産動態統計調査)

2019 年の生産は前年比大幅減で、2017 年以来の低水準。電気銅生産減を直に受けた形で、前の年よりも大幅に後退した。出荷も年後半の円建て価格上昇による販売減や需要減、さらには生産減等が響き、生産と同じくこちらも大幅減。これは

2014年の100t以来5年ぶりの低水準となった。在庫は生産減に出荷減が重なったことで在庫は大きな変動を見せず、年間を通して4~5t台で推移した。

銅

【海外】

2020年1月のLME銅相場は2日、\$6,165/tでスタートし、前半は米中貿易協議の進展、マクロ経済回復見通しなどを背景とした前月来の強調地合いを引き継ぎ\$6,200/t圏へと続伸した。ところが、後半は中国の新型コロナウイルス感染拡大に対する警戒感が急激に強まり、16日の\$6,300.5をピークに31日は前年10月以来の安値となる\$5,570へと11営業日連続で\$730.5(11.6%)急落した。

新型コロナウイルスと思われる感染者は12月8日、武漢市で最初に確認され、世界保健機関(WHO)に発症例が最初に報告されたのは12月31日であった。ところが、1月31日現在、中国の死者は213人、感染者数は10千人を超えたほか、世界各国に拡大したことから、WHOは「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言するに至った。

米中貿易協議は15日、「第1段階合意」の署名式が行われ、中国が米国製品の輸入を1.5倍増やすことや知的財産権の保護など7項目について合意された。米国は中国を為替管理操作国から解除し、2月に制裁関税の一部を引き下げる。

米国経済をめぐっては、米連邦準備制度理事会(FRB)が29日、連邦公開市場委員会(FOMC)で政策金利を1.50-1.75%に据え置き、景気は「緩やかに拡大している」との景気判断を下した。また、トランプ大統領は北米自由貿易協定(NAFTA)に代わるUSMCA(米墨加貿易協定)の実施法案に調印し、米国の批准手続きは完了した。

中国経済は2019年第4四半期GDP成長率が0.6%/年と約30年ぶりの低水準であった第3四半期の同水準となった。2019年通年では6.1%と前年の6.6%から鈍化し29年ぶりの低水準となったが、政府目標は達成した。

英国のEU離脱をめぐっては、英国議会在22日、離脱関連法案を可決、23日にエリザベス女王の裁可を経て成立した。一方、EU議会は31日、英国のEU離脱条件を賛成多数で承認した。これにより英国は31日にEUを離脱した。ただし、急激な変化を避けるため移行期間に入り、12月末までに自由貿易協定の締結などで合意を目指す。

銅独自の市況材料としては、LME倉庫在庫が20、21日の2日間で70千t急増した。先物ポジションの決済日を迎えた現物ワント所有者が在庫を持ち込んだとされるが、新型コロナウイルス発生のタイミングで持ち込まれたことから、投資家の市場心理の変化と関連づける見方もある。

供給障害要因としては、1月30日、ミネラルズ&メタルズグループ(MMG)はラスバンバス銅鉱山(ペルー)からの精鉱出荷を再び停止したことが明らかになった。環境汚染に抗議する地元住民により積出し港に通じる道路が封鎖された。同鉱山はたびたび道路封鎖/出荷停止を余儀なくされており、地元住民は国有ハイウェイによる

農用地の分断、輸送トラックの基準値を超える排気ガスなどに抗議。ペルー環境評価管理局(OEFA)の調査の結果、大気、騒音、水質規制違反が確認され、環境浄化対策や道路の使用時間制限などが求められている。

ユーラシアリソースズグループ(ERG)は1月23日、銅、コバルト精鉱不足のためチャンビシ精製工場(ザンビア)の操業を停止すると発表した。ザンビア政府が銅、コバルト精鉱輸入に5%の関税を課したため、コンゴ民主共和国からの精鉱輸入が困難になっている。同社は操業再開に向け代替ソースを探す。生産能力はコバルト6.8千t/年、銅55千t/年。

需給動向については、国際銅研究会によれば、2019年1~10月の世界の銅鉱石生産は16,895千t、地金生産は19,894千t、消費は20,333千tでいずれも前年同期比ほぼ横ばいとなった。地金需給バランスは▲351千tから▲438千tへと引き続き供給不足で推移した。報告在庫は5.5%増の1,314千t、在庫/消費比率は2.6週間でほぼ横ばいとなった。

鉱石生産の内訳は精鉱が横ばい、SXEWは1%減少した。国別には、チリが鉱石品位低下と年初の供給障害を主因に微減、インドネシアはグラスベルグ、バツーヒジャウ鉱山の採掘鉱体の移行に伴う一時的な減産により47%減少した。コンゴ民主共和国(DRC)、ザンビアはSXEW鉱山の一時的な操業停止、計画減産、一部鉱山の操業トラブルで3%減少した。オーストラリア、中国、メキシコ、ペルー、米国は前年の供給障害による減産の反動を主因に増加した。パナマはコブレパナマ鉱山が新規稼働した。地域別には、北米が4%、ラテンアメリカは1.5%、オセアニアは5%増加したが、アジアは6%、アフリカとヨーロッパは2%減少した。鉱山稼働率は82.5%から81.9%にやや低下した。

地金生産の内訳は一次生産が微減、二次生産は1.7%増加した。国別には、チリがチュキカマタ製錬所の環境改善工事に伴う操業停止により10%減少した。インドはツーチコリン製錬所が2018年4月から操業を停止していることにより21%減少。ザンビアは電力供給途絶、製錬所の操業トラブルや一時閉鎖に加え、2019年1月1日付で銅精鉱に輸入関税(5%)が導入されたことなどから37%減少した。その他主要生産国では日本、ペルー、米国、一部のヨーロッパ諸国が定修閉鎖のため減少。中国は能力増強を背景に増加。オーストラリア、ブラジル、イラン、ポーランドは前年の供給障害による減産の反動から増加した。地域別には、アジアが3%、オセアニアは10%増加したが、北米は2%、ラテンアメリカは7%、アフリカは9.5%、ヨーロッパは2%減少した。精製工場の稼働率は86.2%から83.2%に低下した。

地金消費は中国の見掛け消費(未報告在庫の増減を除外)がネット輸入の11%減少が生産増に相殺されて2.2%増加した。その他主要消費国のなかでは米国、インド、台湾が増加、EU、日本は減少した。中国を除く世界は2%減少した。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

1/6	700	1/9	710	1/14	730	1/22	720	1/24	700	1/28	670
2/3	640										

2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2019年12月分=令和元年12月分)

生産	: 128,900t	(前月比 12.3%増、前年比 5.9%減)
出荷	: 120,700t	(前月比 0.6%増、前年比 0.9%減)
在庫	: 98,200t	(前月比 9.1%増、前年比 0.4%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

2019年12月の銅地金生産は前月比12.3%増、前年同月比5.9%減の128.9千tと、前月比は東予、佐賀関製錬所の定修明けで増加に転じたが、前年比は11か月連続の減少となった。出荷は前月比0.6%増、前年比0.9%減の120.7千tで前月比は2か月連続の増加、前年比は5か月連続の減少。内訳は内販が前月比4.2%減、前年比6.0%減の77.0千tで、それぞれ4か月ぶりと6か月連続の減少。輸出は前月比10.3%増、前年比9.5%増の43.6千tで、それぞれ2か月連続と5か月ぶりの増加。内販のうち電線向けは前年比4.4%減の48.9千tで3か月連続の減少。伸銅品向けは7.4%減の25.4千tで9か月連続の減少。在庫は前月比9.1%増、前年比0.4%減の98.2千tで前年比は3か月ぶりの微減となった。

3. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2019暦年計=令和元暦年計)

生産	: 1,495,400 t	(前年比 6.2%減)
出荷	: 1,510,700 t	(前年比 6.2%減)
在庫	: 98,000 t	(前年比 0.4%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

2019暦年の銅地金生産は前年比6.2%減の1,495.4千tと過去最高を記録した前年からは減少に転じた。出荷は6.2%減の1,510.7千tで過去最高の前年から減少し、2012年以来の低水準にとどまった。内訳は内販が3.4%減の955,823tで2015年以来の低水準、輸出は10.7%減の554,915t。内販のうち電線向けは0.7%減の615,886tで3年ぶりの減少、伸銅品向けは6.6%減の313,076tで2年連続の減少となった。在庫は年間を通じて100千t水準を推移した。

4. 需要部門別動向

日本電線工業会によれば、2019年12月の銅電線出荷は前月比4.0%減、前年同月比0.3%減の56.6千t(推定)と前年比は3か月連続で減少した。うち内需は前年比0.9%減の54.5千tで3か月連続の減少、輸出は18.7%増の2.1千tで2か月ぶりの

増加。内需の部門別には、自動車、建設電販、その他内需が 3 か月ぶり、電力は 4 か月ぶりに増加に転じたが、電気機械は 16 か月連続、通信は 2 か月ぶりの減少となった。

日本伸銅協会によれば、2019 年 12 月の伸銅品生産は前年同月比 8.2%減の 60.1 千t(速報)と 13 か月連続の前年比減となった。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が 7.9%減、自動車端子向けの黄銅条は 15.8%減とともに 11 か月連続の減少となった。コネクタ向けの青銅板条は 12.6%減で 17 か月連続の減少、エアコン向けの銅管は 7.2%減と 5 か月連続の減少となった。

鉛

【海外】

2020 年 1 月の LME 鉛相場は 2 日、\$1,904/t でスタートし、前半は米中貿易協議の進展、マクロ経済回復見通しなどを背景に \$2,000/t 水準まで上昇したが、後半は中国の新型コロナウイルス感染拡大に対する警戒感が急激に強まり、月末にかけて \$1,900 を割り込んだ。

新型コロナウイルスと思われる感染者は 12 月 8 日、武漢市で最初に確認され、世界保健機関(WHO)に発症例が最初に報告されたのは 12 月 31 日であった。ところが、1 月 31 日現在、中国の死者は 213 人、感染者数は 10 千人を超えたほか、世界各国に拡大したことから、WHO は「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言するに至った。

米中貿易協議は 15 日、「第 1 段階合意」の署名式が行われ、中国が米国製品の輸入を 1.5 倍増やすことや知的財産権の保護など 7 項目について合意された。米国は中国を為替管理操作国から解除し、2 月に制裁関税の一部を引き下げる。

米国経済をめぐることは、米連邦準備制度理事会(FRB)が 29 日、連邦公開市場委員会(FOMC)で政策金利を 1.50~1.75%に据え置き、景気は「緩やかに拡大している」との景気判断を下した。また、トランプ大統領は北米自由貿易協定(NAFTA)に代わる USMCA(米墨加貿易協定)の実施法案に調印し、米国の批准手続きは完了した。

中国経済は 2019 年第 4 四半期 GDP 成長率が 0.6%/年と約 30 年ぶりの低水準であった第 3 四半期と同水準となった。2019 年通年では 6.1%と前年の 6.6%から鈍化し 29 年ぶりの低水準となったが、政府目標は達成した。

英国の EU 離脱をめぐることは、英国議会在 22 日、離脱関連法案を可決、23 日にエリザベス女王の裁可を経て成立した。一方、EU 議会在 31 日、英国の EU 離脱条件を賛成多数で承認した。これにより英国は 31 日に EU を離脱した。ただし、急激な変化

を避けるため移行期間に入り、12 月末までに自由貿易協定の締結などで合意を目指す。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2019 年 1～11 月の世界の鉛鉱石生産は 4,243 千t、地金生産は 10,691 千t、消費は 10,724 千tでいずれも前年同期比横ばい、地金需給は前年同期の▲82 千tから▲33 千tへとほぼバランス推移している。11 月末の地金の報告在庫は前年同月比 4.0%減の 363 千t、在庫/消費比率は 1.5 週間から 1.6 週間へと横ばいとなった。

鉱石生産はアメリカが 3.0%、ヨーロッパは 1.8%、オセアニアは 10.9%、アフリカは 5.5%増加したが、アジアは 2.8%減少した。地金生産はアフリカが 9.6%増加、アジア、アメリカ、ヨーロッパは横ばい、オセアニアは 54.1%減少した。消費はアジア、ヨーロッパ、オセアニアが横ばい、アメリカは 2.0%、アフリカは 1.8%減少した。

中国は鉱石生産が 3.7%減の 1,813 千t、鉛精鉱のネット輸入は 38.7%増の 864 千t、地金生産は 4,421 千tで横ばい、地金のネット輸入は 25.0%増の 115 千t。この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫)は 1.1%減の 4,423 千tとなった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

12/10	268	12/16	271	12/24	268	1/6	265	1/10	268	1/17	277
1/28	274	2/3	271								

1 月は LME 鉛相場が月初の\$1,900/t 水準から月央にかけて上昇したものの、月末にかけて再び弱含んだため、鉛建値も月央にかけて反発したが、月末には LME 同様下落した。

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2019 年 12 月分=令和元年 12 月分)

生産	: 16,636t	(前月比 0.3%減、前年比 5.2%減)
出荷	: 16,677t	(前月比 0.3%減、前年比 3.6%減)
在庫	: 18,573t	(前月比 0.6%減、前年比 36.7%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

12 月の生産は前月比、前年同月比とも減。出荷は蓄電池の需要期や年末にもかかわらず、前の月と同じ水準で横ばい推移。前月比、前年同月比とも 2 か月連続の減。見込みに反し、この 2 か月間は低迷。在庫は前月比微減だが、前年同月比は 6 か月連続の増。

3. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2019 暦年計=令和元暦年計)

生産	: 198,371t	(前年度比 0.9%増)
----	------------	--------------

出荷 : 192,445t (前年度比 0.2%増)

在庫 : 18,573t (前年度比 36.7%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

2019年の生産は前年比0.9%増の198千tと2年ぶりの増となった。出荷は上半期が販売増、下半期は販売減となり、トータルでは前年比0.2%の微増となった。前年比は2年ぶりの増。内販は前年を下回り、輸出が前年比2倍強伸びたが、下半期だけをみれば低迷状態であった。在庫は需要減から期初の12~13千t台から期末の18千t台へ増加した。

4. 需要部門動向

11月の自動車生産台数は前年同月比9.3%減の804,523台となり、2か月連続で前年同月を下回った。乗用車は前年同月比2か月連続のマイナス、トラックも同4か月連続のマイナスだが、バスは同3か月連続のプラスとなった。

12月の自動車輸出台数は前年同月比8.1%減の399,262台となり、3か月連続で前年同月を下回った。2019年では前年比0.01%とほんの僅か増の4,818,132台となり5年連続で増加した。

一方、11月の二輪車生産台数は前年同月比14.7%減の51,140台と2か月連続で前年同月を下回った。

(一社)電池工業会の調査によると、11月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、輸出用を併せた総合計で2,295千個(前年同月比5%減)と2か月連続で低下し、自動車用以外の鉛蓄電池も575千個(9%減)とこちらも2か月連続で低下した。その結果、鉛蓄電池の出荷はトータルで2,870千個(同6%減)と2か月連続で低下した。

鉛関連製品生産統計

		10月	11月
自動車	数量(台)	778,590	804,523
	前年同月比(%)	88.1	90.7
自動車用鉛蓄電池	数量(鉛量t)	17,571	16,871
	前年同月比(%)	90.9	89.6

(出所:(一社)日本自動車工業会, 経済産業省生産動態統計調査)

亜鉛

【海外】

2020年1月のLME亜鉛相場は2日、\$2,299/tでスタートし、中旬にかけては米中貿易協議の進展、マクロ経済回復見通しなどを背景に\$2,400/t 圏まで上昇したが、後半は中国の新型コロナウイルス感染拡大に対する警戒感が急激に強まり、月末にかけて\$2,200 圏に軟化した。

新型コロナウイルスと思われる感染者は12月8日、武漢市で最初に確認され、世界保健機関(WHO)に発症例が最初に報告されたのは12月31日であった。ところが、1月31日現在、中国の死者は213人、感染者数は10千人を超えたほか、世界各国に拡大したことから、WHOは「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言するに至った。

米中貿易協議は15日、「第1段階合意」の署名式が行われ、中国が米国製品の輸入を1.5倍増やすことや知的財産権の保護など7項目について合意された。米国は中国を為替管理操作国から解除し、2月に制裁関税の一部を引き下げる。

米国経済をめぐっては、米連邦準備制度理事会(FRB)が29日、連邦公開市場委員会(FOMC)で政策金利を1.50~1.75%に据え置き、景気は「緩やかに拡大している」との景気判断を下した。また、トランプ大統領は北米自由貿易協定(NAFTA)に代わるUSMCA(米墨加貿易協定)の実施法案に調印し、米国の批准手続きは完了した。

中国経済は2019年第4四半期GDP成長率が0.6%/年と約30年ぶりの低水準であった第3四半期と同水準となった。2019年通年では6.1%と前年の6.6%から鈍化し29年ぶりの低水準となったが、政府目標は達成した。

英国のEU離脱をめぐっては、英国議会在22日、離脱関連法案を可決、23日にエリザベス女王の裁可を経て成立した。一方、EU議会在31日、英国のEU離脱条件を賛成多数で承認した。これにより英国は31日にEUを離脱した。ただし、急激な変化を避けるため移行期間に入り、12月末までに自由貿易協定の締結などで合意を目指す。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2019年1~11月の世界の亜鉛鉱石生産は前年同期比1.3%増の11,807千t、地金生産は2.3%増の12,385千t、消費は12,555千tで横ばい、地金需給バランスは前年同期の▲448千tから▲169千tへと供給不足幅がやや縮小した。11月末の地金の報告在庫は前年同月比4.6%減の837千t、在庫/消費比率は3.0週間で横ばいとなった。

鉱石生産はオセアニアが17.3%、アフリカは21.5%増加、アジアとヨーロッパは横ばい、アメリカは1.4%減少した。地金生産はアジアが4.8%、アフリカは15.3%増加、アメリカは横ばい、ヨーロッパは3.7%、オセアニアは5.7%減少した。消費はアメリカが2.1%、アフリカは5.8%増加、アジアは横ばい、ヨーロッパは3.7%、オセアニアは2.1%減少した。

中国は鉱石生産が1.1%増の3,987千t、亜鉛精鉱のネット輸入は4.7%増の1,295

千t、地金生産は7.5%増の5,643千t、地金のネット輸入は17.0%減の498千t、この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫/国家備蓄)は6,025千tで横ばいとなった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

12/2	301	12/6	295	12/11	292	12/16	298	12/19	307	12/24	304
1/9	313	1/17	319	1/22	322	1/27	307	2/3	292		

1月はLME亜鉛相場が\$2,300~2,400/t台で月央まで堅調に推移したものの、月末にかけては反落したことで、亜鉛建値も300千円/t台をкаろうじて保った。しかし、2月初めには300千円台割れとなった。

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2019年12月分=令和元年12月分)

生産	: 47,681t	(前月比 14.6%増、前年比 3.3%減)
出荷	: 43,984t	(前月比 8.1%増、前年比 2.8%減)
在庫	: 70,099t	(前月比 5.6%増、前年比 16.9%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

12月の生産は前月比増だが、前年同月比は2か月連続の減。出荷は年末要因から、めっき向け販売と輸出がやや増加して前月比増だが、前年同月比は3か月連続の減。状況は変わらず、全般的に低調推移。在庫は生産増から前月比、前年同月比とも増。半年ぶりの70千t台。

3. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2019暦年計=令和元暦年計)

生産	: 526,717t	(前年度比 1.1%増)
出荷	: 516,788t	(前年度比 3.1%減)
在庫	: 70,099t	(前年度比 16.9%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

2019年の生産は、小トラブル等はあったものの、前年比1.1%増の527千tと6年ぶりに増加した。出荷は、前の年と同様、全国各地での地震、集中豪雨、台風等の災害による亜鉛ユーザーの生産減少、さらに景気低迷や消費税アップによる需要減から、前年比3.1%減の517千tと2年連続で減少した。これは前の年の低レベルである533千tをあっさり下回り、1966年(昭和41年)の450千t以来53年ぶりの低水準となった。在庫は生産、出荷とも低レベルながら、大きな変動がなかったことから、概ね60~70千t台と狭い範囲での増減を繰り返した。

4. 需要部門動向

12月の鉱工業生産指数は前月比1.3%増、前年同月比3.0%減の98.9(季節調整済、2015年=100基準、速報値、以下同じ)となった。前月比は3か月ぶりの上昇、前年同月比は3か月連続で低下した。10～11月の減産分を取り戻すだけの力強さは無かった。経産省は生産の基調を「弱含み」に据え置いた。

10～12月期は前期比4.0%低下の98.4で、現行基準で統計が遡れる2013年以降では、過去最大の下げ幅を記録した。輸出や設備投資の減速が響いた。

12月の出荷指数は前月比±0.0%の96.4と横ばい、前年同月比は3.7%減と生産と同じく3か月連続で低下した。

一方、在庫指数は前月比1.6%増の105.0、在庫率指数も前月比17.3%増の136.0となった。

大企業の生産見通しを示す製造工業生産予測指数では、1月が前月比3.5%、2月は同4.1%とともに上昇を見込んでいる。1月と2月は上昇を見込むものの、新型肺炎の影響は反映されていない。

11月の亜鉛めっき鋼板生産は、前年同月比が2か月連続の減となった。

11月の伸銅品生産量は61,682t(確報値、以下同じ、対前年同月比▲13.9%)、(対前月比▲2.2%)、対前年同月比は12か月連続のマイナス(9月▲8.8%、10月▲13.9%)。全14品種中、対前年比プラスは銅線の1品種。

黄銅製品では、黄銅条が7,837t(対前年比▲16.0%)、10か月連続の対前年比マイナス。車載分野の調整に加え、民生用コネクタ分も低迷。黄銅棒は14,554t、4か月連続の対前年比マイナス(対前年比▲12.3%)。住宅設備関連需要の低調が続く。

亜鉛関連製品生産統計

		10月	11月
亜鉛めっき鋼板	数量(千t)	760	778
	前年同月比(%)	84.9	91.3
黄銅製品	数量(t)	25,688	25,417
	前年同月比(%)	84.5	85.3
亜鉛ダイカスト	数量(kg)	1,448,714	1,388,942
	前年同月比(%)	96.9	86.4
亜鉛華	数量(t)	5,130	5,256
	前年同月比(%)	78.7	88.9

(出所:(一社)日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査)